

『こども食堂通信』No.8

発行：公益社団法人北海道社会福祉士会 道央地区支部

子ども食堂訪問記⑧♪「ゆるきち」編（札幌市東区北25条東6丁目3-2）

(ゆるきち)

8月7日、ゆるきちにお邪魔しました。「ゆるきち」と小さい看板があるだけの2階建ての一軒屋。

1階に4~5人、2階に2人。ギターの演奏が聴こえてきたり、くすくす笑う女子の声が聞こえたり。

今までの訪問場所とは、ちょっと雰囲気が違います。

ゆるきちは、NPO法人Kacotam（以下カコタム）が「自分の思いや考え、行動が大切にされるゆるい空間」を目指し、そこで勉強したり、大学生・社会人メンバーとおしゃべりしたり、マンガを読んだりすることができる空間」「自分が大切にされるゆるい空間」として、2016年11月に開設されました。中学1年～18歳を対象とし火、金（学習支援）、日曜に開館し1回100円で利用できます。

カコタムは他にもスタサポ事業、学ボラ事業、スクールサポート事業、リラーニング事業に取組んでいます。事業内容等をとても詳しくホームページに載せてています。

(代表の思い)

様々な事業にはボランティアが関わっています。ボランティアスタッフのうち6割が学生です。市内の大学3カ所にはカコタムサークルがあり、サークル活動の一環として学生がボランティア活動に参加しています。

ゆるきちは、カコタムの中では新しい活動です。学習支援の枠を超えた子ども達の「やりたい」をカタチにしたり、興味の幅を広げるイベントを企画したり、地域の子どもの居場所にしたく作りました。これまで延べ約800名の子どもが利用しています。その中には一度だけの子もいれば、決まった曜日に来る子、地下鉄で通ってくる子もいます。正直こんなに利用する子どもがいるとは思っていませんでした。

学習支援は、「学習を支援する」というはっきりとした目的があり、子ども達との距離感が保てますが、ゆるきちでは利用する子どもの目的（悩み）を簡単に理解することは難しく、積極的に付き合うことを拒否する子どもがいるなど、子どもとの関係性・距離感が難しく、スタッフと共に子どもが抱える問題を考える機会が多くなりました。

今後も、今まで以上に子どもたちに学びの場・挑戦できる機会を広域的に提供していきたいと思っています。

北海道社会福祉士会道央地区支部から

今回、訪問した「ゆるきち」は子どもが希望すればおにぎりなど簡単な食事は提供しますが、「子ども食堂」というよりは「子どもの居場所」でした。

利用者が中学生以上であり、自らが自分の居場所を探し、自分で訪問しています。

ゆるきち事業の運営には子どもたちの要望も取り入れ、イラスト教室等の開催、職業訪問など、子どもたちの将来に希望が持てる体験を行っており、夢を現実にする貴重な時間を共有できる場だと感じました。様々な企画ができるのは、企画に参加してくれるボランティアをたくさん確保できているからです。

同じ社会福祉士として、代表に社会福祉士に望むことをききました。

「直接ボランティアとして関わることも大切ですが、学生ボランティアが、子どもが抱える問題をどう対処していくか一緒に考えてもらいたいし、金銭的に余裕のない家庭で育つ子どもたちの夢を叶えるために、学費等の奨学金や貸付金等の情報も教えてほしい。」とのことでした。社会福祉士がボランティアとして関わる場を見つけることができたと確信しました。

【豆 知 識】 「生活福祉資金」 って？

生活福祉資金の中には、高校や大学等への進学に際し、入学金等の入学に必要な経費や授業料等の就学経費のために教育支援資金の貸付があります。貸付には条件があり、詳しくは市区町村の社会福祉協議会で相談することができます。その他に、母子父子寡婦家庭を対象とした母子寡婦福祉資金や学生支援機構等の貸付があり、それぞれ各総合振興局(札幌・函館・旭川市を除く)や学生支援機構にお問合せください。